

佳作

(福岡県福岡市)
福岡海星女子学院高等学校 三年
鶴田 ひとみ

「✉20歳の自分へ」

お手紙書くのは久しぶりですね、

お元気ですか。あんまり久しぶりだからもう貴方への手紙の書き方忘れちゃった。

これが私の送った何通目の手紙になるのか覚えていないけど、

私が貴方の年を二つに割った、十歳くらいから手紙を書き続けているのは覚えてるよ。

不定期だけど、いつもいつも飽きもしないで、「二十歳の私へ」。

貴方は一通目から順に封を切っているのかな。

きつとこの手紙を読んでいる頃には貴方は私の幼く綴った拙い字を鮮烈に記憶していて――

世界が色で満ちていた頃に鉛筆をすべらせた字の、あのみずみずしい記憶に触れたんだろうな。

そう書くにはまだ私も若いんだろうけど。

私、昔書いた手紙の内容なんておぼえてないよ。読みたい反面、思い出そうとすると

胸がきゅつとなります。

私、今までどんなこと考えてたっけ。

そういえば、幼稚園からずっと一緒だったかずとひろね、高校になってからもう

全然会ってないんだ。

この間会ってみたら二人とも、すごく大きくなった。二人は同じ部活だつて。

昔みたく秘密基地とか作れないよね。帰り道に遠回りしたり、川で魚見つけたり。

二人と私は性別も違うし、結婚したらますます会えなくなっちゃうな。

すぐ隣なんだからいつでも会えるのにね。

でももう会っても何話したらいいか分からないんだ。

あーあ、私も男だったら良かったなあ。

そしたら三人で女の子の話して、おい舞鶴高の新しいマネージャーにいい子入ったぜ、

とかそんな馬鹿な会話にも入れたのにね。

彼氏ができて、男の子で大切なやつて幼馴染なんだよね。いや、違うなあ、

男の子としてより、家族みたいに大切なのに、大切にする方法が分からないんだ。

もう私達大きくなってしまった。

ねえ、二十歳の貴方の傍には誰がいるのかな。

きつと、誰か大切な人を失って、大切な人と出会って。

葛藤しながら暮らしているのだと思います。

二十歳おめでとう。

二十歳の貴方に幸せが届けばいいな。